

第39回

うつのみやこども賞だより

令和4年度 1回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『人魚の夏』

嘉成 晴香／作 (あかね書房)



令和4年 6月5日

～読んだ本の感想よ～

- 知里は一年間も夏との約束を守りつづけたなんて、すごいなと思いました。
- 知里が夏と合唱コンクールまでいろいろな問題にあっても仲間と協力していて、応援したいと思った。
- 周りの友達も夏とうちとけていって、最後の合唱コンクールでも、みんなの気持ちが一つになったから、奨励賞がもらえたんだなと思いました。
- 一ページをめくるのがとても楽しく、「次が読みたい!!」と思った。
- この本を読んで「夏のひみつ」を知ってしまったことを、春みたいに「こうして知ってもらえてよかった」と夏が思ってくれていたらいいなと思った。
- 主人公達は小学5年生にして、複雑な人間関係があり、読んでいておもしろかった。

『坂の上のパン屋さん』 尾崎 美紀／作 (文研出版)

- これを読むとパンを食べたくなった。おもしろかった。
- 自分に興味がないことよりも大好きで興味があることの方がおぼえるのが早くなるということが実感できた本でした。
- いつもすぐ売り切れてしまうパンをつくる人の思いが想像できて、ほっこりするお話でした。
- 主人公がどれだけパンが好きでつくるのが楽しいのかがこの本でわかった。
- 大変な工程をへて作られていることを知って、ありがたく思いました。

『ぼくんちのねこのはなし』 いたう みく／作 (くもん出版)

- ねこを飼っているので、いつかこういう日がくると思って泣けました。
- ひろってきたねこ、ことらを最後まで一生懸命見守ってやさしい家族だなと思った。
- 命の大切さ、はかなさが分かりました。みんなのやさしさが伝わってきました。
- ねこが高齢というのを不安に思い、ねこが天国へ行ってしまうのが感動した。

『飛べ！遺伝子を超えて』 森川 成美／作 (国土社)

- 主人公と、主人公に似ている子は血が繋がっていると思っていたので、繋がっていないと知りとても驚きました。
- 親と子どもは別の人間だから親の考えにとらわれないで自分の考えで動く方がいいのかなと思った。
- ふたごかふたごじゃないか？お父さんは？などと、ミステリーがどどんふえていく所がおもしろかったです。
- あまりが転校して学校に来たとき、なかなか学校になれなくてささえになったのがさやだと思います。姉妹のようにこれからも仲よくしてほしいです。